

平成 29 年度新規高卒者雇用優良企業

岩電機工事株式会社

【企業概要】

- 事業内容 電気設備の設計、施工、メンテナンス
- 代表者 代表取締役 蛭田 淳
- 従業員数 35名（男性 31名／女性 4名）
- 所在地 いわき市錦町大島5-1
- U R L <http://www.iwadenki.co.jp/>



【岩電機工事株式会社】

岩電機工事株式会社は、昭和 45 年の創業以来、企画・コンサルティングから設計・施工、アフターメンテナンスまで豊富な経験と確かな技術力により、一般住宅からオフィスビル、各種工場、官公庁施設、道路・トンネルなどの電気設備工事、情報通信設備工事、消防施設工事を行っています。また、平成 24 年からは、LED 蛍光灯ランプや太陽光パネルの自社開発製造も行い、低コスト高品質の電気設備を提供している企業です。

今回は、平成 29 年度新規高卒者雇用優良企業となった同社の、若者の雇用と職場定着の取り組みについて、代表取締役の蛭田 淳さん、工事部長の木寺 普さん、入社 2 年目の吉田紗耶さん、羽山英佑さんにお話を伺ってきました。

人材育成はチームでサポート

―入社 2 年目の吉田さん、羽山さんに伺います。就職を決めたきっかけと今後の目標を教えてください。

吉田さん：父が電気工事の仕事をしていたので、小さい頃から興味のある職業でした。平工業高校の電気工学科へ進学し、就職を考える頃、たまたま家の近くで電気工事をしていたのが今の会社で、皆さんの仕事の様子見て、企業訪問を申込み、会社の雰囲気に触れ、ここで働きたいと就職を決めました。

今は、3～4 人のチームでひとつの現場を担当しますので、先輩の指示の下作業しています。線をつないでいる時が一番楽しい作業なので、先輩方の技術を近くで見ながら必死に覚えているところです。今後は、自分で考えて配線ができるように成長したいと思っています。

羽山さん：電気工事の仕事がしたくて、平工業高校の電気工学科に進学しました。また、LED ランプや太陽光も自社で開発していることにも魅力を感じ、会社を選択しました。

入社後、いわき医療センターの電気工事にチームの一員として参加しました。大きな現場は初めてでしたが、とても貴重な経験となりました。ただ、今年の夏はとても暑く、体調を崩してしまったため、仕事をする上では、体調管理も大切なことだと学びました。

今は、分からないことがあると、すぐに先輩に教えてもらえる環境なので、ひとつずつ自分の出来るが増えていくことに楽しさや充実を感じます。今後は、自分で動けるよう、そして後輩にも教えられるよう成長しなければいけないと思っています。

―木寺さんに伺います。新人社員をサポートする上で心がけていることは何ですか？

木寺部長：当社では、入社後 1 週間の基本研修が終われば、現場に入ります。作業は 3～4 名のチーム制にしており、新人社員の体調面や作業面などを把握しながら指導にあたります。様々な現場を見て、知識と経験を積むことが技術者にとって大切ですので、1 つの現場は最初から最後まで経験させ、先輩社員の仕事を見ながら技術や知識を習得してもらっています。

私たち先輩社員にとっても、見られること、教えることで自分の勉強や技術力の向上につながります。

外での作業が多いため、顔色などの体調を気遣うほか、仕事についてもわからないことはすぐに聞ける、話しやすい環境になるため、上司・部下、先輩・後輩という立場ではなく、同じ仲間という感覚で接するように心がけています。ただし、電気工事は、感電など命にもかかわる危険な作業でもあります。仕事の指示や安全性については厳しく指導するなど、メリハリも大事にしています。



【太陽光発電施設電気工事での配線作業】



【奥から羽山さん、吉田さん、木寺部長】

話しやすい職場と評価される環境づくり

―御社の人材育成方針や職場定着に向けた取り組みについてお聞かせください。

蛭田社長：当社では、人材育成方針を「人は会社の財産であり、その人が誰よりも楽しく、誰よりも幸せになること」とし、笑いが絶えず、新人でも様々な意見が言える環境づくりを目指しています。

作業を 3～4 人のチーム制とすることは、新卒者の体調面や作業面をみながら手厚く指導できると同時に、時に相談相手としてサポートできる利点があります。さらに、先輩後輩の絆を深めやすくするため、社員の出身校には毎年必ず求人を出すようにしていることも、話しやすい環境づくりにつながっていると思います。

一方で、建設現場の進行は自分で決めることができませんので、工期や作業環境など厳しい現場になることも、休暇が取得しづらくなることも、やむを得ない場合があります。しかし、厳しい現場の後は、比較的やりやすい現場にするなど、チームごとにローテーションを組んだり、忙しいチームへの協力体制を整えるなど、会社全体で休暇取得などのワークライフバランスに努めています。

木寺部長：私は勤続 10 年目となりますが、自分でつないだ配線で電気がついた瞬間は、充実感や達成感が味わえ何年たってもうれしいものです。

吉田さん、羽山くんは、今は仕事を覚えることにながむしゃらで、余裕がないかもしれませんが、4～5 年の経験を積み、この充実感を味わえると思いますので、電気工事士としての経験を重ねながら、実務経験を必要とする電気工事施工管理技士などの資格取得にもチャレンジし、専門性を深めていってほしいと思います。

蛭田社長：これは、これから実現したいことなのですが、現場チームは、ひとつの現場が終わると次の現場に移るため、終了後に自分たちが行った工事や技術を客観的に評価されにくい状況にあります。また、営業部門、事務部門の社員は、技術者チームがどのような仕事をしているかを見に行くこともできませんので、社員の仕事を会社全体で共有するために、現場で作業風景や完成写真を社内に掲示することにより、声にだして評価する仕組みを作りたいと考えています。評価されることは励みになりますし、やりがいにもつながるものだと思います。



【公共施設電気工事での最終確認】

目指すは女性だけの電気工事チーム結成

―新規高校生を採用するにあたっての課題はありますか？

蛭田社長：市内の高校生が進学や就職で首都圏へ行くことは仕方のないことかもしれませんが、やはり、地元に戻ってほしいという思いもあります。ですが、首都圏の企業に比べると企業としてのアピール力が足りないと感じています。

自社の魅力を伝えることはもちろん、建設業は 3 K（「危険」「汚い」「きつい」）などのイメージがあり敬遠されやすいと言われますが、市民生活に欠かせない重要な役割を担い、危険を伴うと同時に、期待されている仕事であるということをきちんと理解してもらい、積極的にイメージの払しょくと魅力の発信を図っていかねばならないと考えています。

その機会の一つとして、毎年、勿来工業高校電気科の学生のインターンシップを受け入れ、電気工事の仕事の楽しさと当社の魅力を高校生にアピールさせていただいています。

―より魅力ある職場にするために、どのような取り組みが必要になると思いますか？

蛭田社長：現在、当社で働く女性技術者は、吉田さんのみですが、一般住宅などでの工事においては、気遣いや細かい点に気付くなど女性ならではの仕事ぶりがあると思いますので、ゆくゆくは、設計から施工までできる女性だけのチームをつくりたいと思っています。その時は、特別な作業服や社用車も用意するつもりですので、吉田さんには、デザインをお願いしましょう。

もちろん会社としても、女性技術者が入社しやすく、働きやすい職場環境を整えていきたいと思っています。



【公共施設電気工事での配線作業】



【左から羽山さん、蛭田社長、吉田さん、木寺部長】